

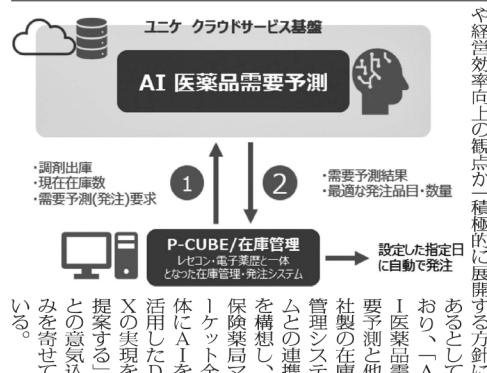
AI医薬品需要予測サービスを用いて、在庫金額が増えることから、季節性への対応が難いことなどから、A-I医薬品需要予測サービスをリリースすると発表した。

保険薬局のレセプトコンピュータで入力した調剤実績や在庫実績のデータをクラウドで処理する。AI医薬品需要予測により、薬局内のコンピューティングだけで医薬品の需要予測を実現。簡単な発注条件の選択のみでA-Iが学習した調剤データに基づく需要予測により、医薬品の発注業務において最適な発注項目・数量が提案されることにより、大幅な在庫金額や業務時間の圧縮、欠品による機会損失の防止などの効果が期待できることとしている。

ユニケソフトウェアリソースは電子薬歴レセコン・一体型システム「P-CUBE」、「P-CU BE」「P-CU BE-I」のオプション製品として、保険薬局向けのA-I医薬品需要予測サービスをリリースすると発表した。

保険薬局向けA-I医薬品需要予測サービス発表

ユニケ 対物業務のICT化による薬局DX加速に意欲



測では季節変動や患者の来局動向などをA-Iが学習することで、発注点の設定は不要となる。また、A-I医薬品需要予測サービスをリリースすると、調剤頻度が低い需要予測が難しい医薬品は、自動発注は行わずA-I発注勧告リストを出し、薬剤師の判断を仰ぐことでより細かい発注業務の実現を促す。

保険薬局DX化による薬局DX加速に意欲

薬剤師の業務は対物か対人へと比重や価値観が変わりつつあるなか、

ことになる。

からは適正在庫が求めら

れ約1000品目以上

ある医薬品の発注業務に

は知見・経験とともに相

当の業務負担が発生する

ことになる。

にはICTによる対物業

務・医薬品発注時間の削

減は急務と強調。保険薬

局の業務システムとクラ

ウドを連携できるデジタ

ル基盤の構築を通じたA

I医薬品需要予測の実現

れ、患者のために欠品で

を経て、今後クラウド基

盤を活用したサービスを

や経営効率向上の観点か

らは積極的に展開する方針に

あるとして

おり、「A-I医薬品需

要予測と他

apo

との連携を構想し、

保険薬局マ

ーケット全

体にA-Iを

活用したD

Xの実現を

提案する」との意気込

みを寄せて

いる。